

平成30年度 宮崎県立延岡星雲高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	【教育目標】生き抜く力を身につけた、新しい風を呼び起こす創造者として社会に貢献できる人材を育成する。 【経営ビジョン】地域に根ざす普通科高校として、生徒一人ひとりを大切に、豊かな人間性を育み、地域や保護者に信頼される学校づくりを推進する。			学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等を基にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
本年度の重点目標	1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。 2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。 3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。			※ 自己評価、学校関係者評価とも、A～Dの4段階評価とする。 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する	
重点目標	評価項目	取組内容	自己評価 成果と課題・改善策	評価	学校関係者評価 評価・具体的意見
1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。	① 学習(授業)改善	大学入試改革や高校教育改革への対応を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践を目指す。	昨年度の学校関係者評価において、「生徒自らが考えたり、思いや意見を述べたりする」活動や「個々の生きる力へつながる」指導を求める意見を頂戴した。このことから、今年度は相互授業参観の記録用紙を一新し、生徒の学習感を共有し改善すること及び各教科の特性や授業内容に応じた「主体的・対話的で深い学び」の考え方を共有できるように工夫した。また、参観後は授業参観の記録を教科会でフィードバックし、その議事録を授業改善推進リーダーに報告する体系的で、全教員による取り組みとなるよう工夫した。しかしながら、実践内容が目に見える成果となって表れるにはまだまだこれからの取り組みでもある。	C	○個々の思いや意見が積極的に表現される授業改善の在り方に、意欲的・主体的に考え、活動する生徒像を期待できる。○将来の進路、夢を描く生徒自身はどのような進路に関する授業活動を望んでいるのだろうか。講演会や職場体験の実施を継続されると共に、更には自分達で気になる企業や職種発掘、彼らなりの発想力や個々の得意分野を生かし深める進路研究を楽しんで欲しいと願う。○校長のリーダーシップを発揮し、昨年度の反省を基に具体的な経営ビジョンを立て、学校経営を進めていることが伺える。学力向上のためにまず、授業改革を進め、相互参観、記録、教科会で協議をするなど教師の意識改革、授業改善の成果が上がっている。それらの取組を今後も進めていただき生徒の学力向上をさらに図ってほしい。○キャリア教育について、進路講演会、キャリア教育講演会、校内進路ガイダンス、「ミライ学」を総合的な学習(キャリア学)として体系的な取組が成果を上げている。入学から卒業、将来にわたるキャリア教育が進められ、さらなる成果が期待される。○学力向上や進路実現に向けて先生方が色々な対策を考えられ実践しているところとされている様子がわかります。書かれてあるように目に見えての成果が表れてこないのは無理もありませんが、少しずつでも変化は現れているのではないのでしょうか？学生ひとりひとりの意識(自分の将来に向けての設計)が確立していない事には行動には伝わりにくいと思います。自分で選んだ高校とはいえ、ただ漠然と入学してきている生徒が多いのではないのでしょうか。まず、社会にはどのような職業があるのかという初歩的な内容を取り入れてからのキャリア教育というの必要かも…。○①について「主体的・対話的で深い学び」に対しての工夫とは、どのような授業の展開であったのかを是非知りたいです。○②について、夕課外、土曜講座を希望し、参加した生徒はどれくらいの割合だったのか。○生徒が目標をもって生き生きと学べる場であって欲しいと思います。先生方が熱心ですのでキャリア教育の充実も図れるものと期待します。
2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。	② 学力向上	個に応じた指導の充実と家庭学習の確立を図ることで、学力の向上を目指す。	通常の授業の改善・充実に加えて、朝夕課外・土曜講座・模擬試験を通して、学力向上を図っている。3年生においては、夕課外・土曜講座を選択制とし、個の希望や到達度に応じた指導を実践している。模擬試験に関しては、分析を行いそれに続く授業へのフィードバック及び次の模擬試験への対策へと活用している。但し、目に見えて学力向上が達成できている箇所が少ないため、今後のよりいっそうの取組の充実が必要である。	C	
3 『キャリア教育』	③ キャリア教育	進路設計の早期確立と適切な指導により、進路保障と社会貢献への意欲向上を図る。	これまで進路講演会を各学年に対して1回ずつ実施し進路意識の高揚を図った。1年生・2年生に対してキャリア教育講演会を1回実施し、3月に2回目を行う予定である。2月に25校前後の大学専門学校を招いて校内進路ガイダンスを実施する予定である。1年生普通科対象の「ミライ学」(＝九州保健福祉大学における体験授業)を9月に実施した。これらを通して1年生は2年生における文理選択、2年生は3年生におけるコース登録・進路志望の構築、3年生は受験校の決定に役立てることができることを期待している。成果については、まだ今後の追跡調査が必要である。	B	
1 『生徒指導の推進』	① 生徒指導の推進	「基本力」「自己管理能力」「コミュニケーション能力」を身につけさせ、素直でさわやかな生徒を育成する。	挨拶・交通ルールマナーの遵守等にしっかりと取り組ませる為の手立てを今後工夫することが必要。今年度は例年に比べて問題行動が若干多い。自己肯定感や目標を持たせることが今後の課題である。朝の登校時に、時間を守れない生徒がいる。自分で時間を管理出来ていないので、当たり前のことを当たり前に出るようになることが必要である。スマートフォンの普及により、利用方法に問題ある生徒が多い。また、今後は学校としてもその扱い方についても検討する必要がある。	C	
2 『人権・道徳・特別支援教育の充実』	② 人権・道徳・特別支援教育の充実	生徒理解・情報共有・統一指導により、いじめや2次障がい防止と対応に努める。	学期1回実施されるリクエストアンケートにより、相談内容を把握でき各自相談する先生が指名できることにより、その結果困り感や学習への不安感などを知らせることができ、初期段階で対応できた。相談室と保健室の連携がとれ、事情によって相談室対応や保健室対応などの処置がとれ、早期に解決へと導く手段がとれ良かった。学年会出会により、毎週学年の生徒情報が詳しく得られ、生徒把握につながり意識の高い生徒への働きかけや見守りができた。	B	
3 『部活動の推進と諸活動への積極的参加』	③ 部活動の推進と諸活動への積極的参加	チャレンジ精神を養い、自尊感情を育てながら人間力の向上を図る。	部活動の加入率は例年通りで非常に高い。各部がそれぞれの目標に向けて積極的に活動している姿が多々見られる。特に、放送部が全国3位の成績を残したことが学校に勇気と元気を与えてくれた。年3回の部活動推進週間については、ただ継続させるだけでなく、来年度から始める星雲プログラムとうまく連携するためにしっかりと検証し指導の改善と内容の充実を図りたい。	B	
3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。	① 広報活動の充実	教育情報を効果的・積極的に発信し、学校理解と協力体制の推進を図る。	学校説明会や随時申し込みのある学校見学等には例年同様100%対応した。特にフロンティア科をアピールするため、今年度はフロンティア科主任が直接説明をする機会を増やした。広報活動を充実させ、募集に効果があがるための具体的な取り組みとしては、学校ポスターのキャッチコピーの工夫、学校案内パンフレットのレイアウトの修正、学校ホームページのリニューアルオープンを行った。学校ホームページの改善については数年来の懸案事項で、内容の充実とともに運営の在り方について今後も検討していく必要がある。	B	
	② リスクマネジメントと対応	安全管理と危機的状況の未然防止を徹底し、安全で安心な学校生活を保障する。	本年度2回実施した避難訓練では、緊急事態の場面想定をより具体化し、避難経路を見直したが、実際の被災場面に生かせる避難のあり方については、学校全体の検討が必要と思われた。訓練そのものについては、生徒職員ともに緊張感をもって訓練に臨む姿勢がみられた。今後は、職員の意識をさらに高め、“職員による避難誘導訓練”として職員一人ひとりの臨機応変な対応力を高める計画を立てるとともに、抜き打ちや避難経路の一部閉鎖、地域住民との共同訓練などを行うことで、より実践に対応する力を養う機会としたい。	C	
	③ 連携強化	保護者や地域との連携を深め、三者が一体となった教育活動を推進する。	PTA新聞の年2回の発行により、学校の情報を保護者へ伝達できている。また、PTAレクレーション、校内奉仕活動により保護者間、そして教員の相互理解を充実させている。また、3年生の入魂式など生徒の学習意欲の喚起にもつとめてきた。保護者と学校の情報交換会は充実し、信頼関係を構築している。このように、保護者との連携を密接にする取り組みは十分である。報道機関に依頼して学校行事の報道を行っているが、地域との連携については充実しているとは言い難い。	C	